

8 哺乳子豚の斉一化技術

ねらいと成果

近年、養豚経営は規模の拡大が進み、子豚及び肉豚は群による管理が主流となってきた。しかし現状では生時体重のばらついた子豚は、離乳後ばらつきがさらに拡大するため、育成途中で群の組み替えが行われている。そこで子豚の離乳時体重の斉一化を図る目的で、哺乳子豚に対してグループ哺乳及び分割離乳を行った。その結果、子豚離乳時体重のばらつきはグループ哺乳により有意に改善され、分割離乳によりさらに少なくなった。

内容

試験はランドレース種系の経産豚を用い、表1に示すように区分した。グループ哺乳は分娩の同期化により、同日に生まれた3腹30頭の子豚を体重により大中小に分けて行った。なお、試験の前提条件として1区及び2区共に大グループの母豚は子豚が大きくて吸乳能力が高く、授乳による負担が大きいと考えられるため、母豚へのエネルギーの補給を目的に中鎖脂肪酸トリグリセリド(MCT)を日量250ml給与した。また、小グループの子豚は体重が小さく活力が低いと考えられるため、子豚への活力付与を目的にMCTを4ml/回×グループ哺乳開始後2日間給与した。分割離乳は生後20日目に体重の上位50%を先に離乳し、残りは他のグループと同様に25日目にいった。母豚へのVB₂給与量は飼料の0.1%とした。

その結果、子豚離乳時体重の変動係数は1区及び2区が対照区の21.44%に比べて有意に改善し、そ

れぞれ、9.44%及び10.71%となった。また、1区の大グループの変動係数は分割離乳により離乳時において8.13%となり他の区に比べて低くなった。母豚の授乳期間中の体重減少率は中及び小グループへのMCT給与を行った1区が7.1%で、2区の8.7%及び対照区の8.9%に比べて低くなった。また、2区の大グループはMCT給与を行ったが、飼料摂取量の低下により高くなった。出荷日齢(110kg時)は1区及び2区が対照区の187.2日に比べてそれぞれ、10日及び6日短縮した。出荷日齢の変動係数は1区及び2区が対照区の10.59%に比べて低く、それぞれ8.18%及び7.99%となった。

今後の方針

小規模経営の多い県下の養豚農家を想定し、1腹及び2腹での子豚体重の斉一化と早期分割離乳について現在検討中である。

岩本 英治(中央農技・家畜部)

表1 試験区分

区分	グループ	母豚への処理	子豚への処理
1区	大	MCT給与	分割離乳
	中	MCT給与	通常飼養
	小	MCT・VB ₂ 給与	MCT給与
2区	大	MCT給与	通常飼養
	中	通常飼養	通常飼養
	小	通常飼養	MCT給与
対照区	同時期に生まれた通常管理による子豚		

表2 子豚の体重、変動係数及び肥育成績

区分	グループ	体重(kg)		変動係数(%)		出荷日齢(日)	出荷日齢の変動係数(%)	母豚の体重減少率(%)
		生時	離乳時	生時	離乳時			
1区	大	1.68	7.40	6.80	8.13	172.4	8.39	6.1
	中	1.41	7.05	4.13	10.75	179.4	7.20	5.9
	小	1.21	6.80	6.97	9.43	179.1	8.95	9.3
平均		1.43	7.08	5.97	9.44 a	177.0	8.18	7.1
2区	大	1.69	6.83	7.39	10.78	173.7	9.22	10.8
	中	1.43	6.57	3.38	10.16	186.6	6.67	8.2
	小	1.21	6.27	7.96	11.19	184.7	8.07	7.8
平均		1.44	6.64	6.24	10.71 a	181.6	7.99	8.7
対照区		1.41	6.46	16.58	21.44 b	187.2	10.59	8.9

a, b: 異符号間に有意差あり (p<0.05)